

3 - 9 油壺・鋸山における地殻変動観測（その6）

Secular Ground Tilts and Strains as Observed at Aburatsubo and Nokogiriyama (6)

東京大学地震研究所 油壺地殻変動観測所
鋸山地殻変動観測所

Aburatsubo Crustal Movements Observatory
and Nokogiriyama Crustal Movements
Observatory, Earthquake Research Institute,
University of Tokyo

前報（会報第13巻（1975），47 - 49）に引続き，1974年10月以降の観測概況を報告する。

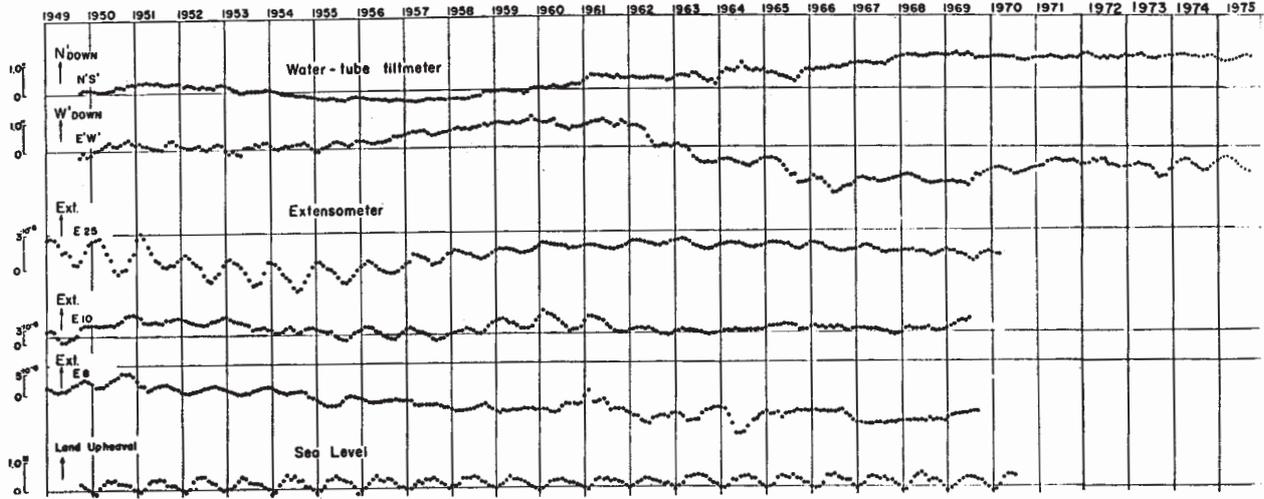
油壺の水管傾斜計両成分ともその後格別の動きは見られない（第1図）。鋸山の傾斜計EW成分はかなりのE下り傾斜を示している。この動きは以前から続いているものであり，おそらく房総半島全般（あるいは南半部）の運動を反映しているものであろう。その速度は1973年ころからやや高くなっており，0.2秒／年程度である。これに比べればNS成分の動きは少い。

第3図は野島崎における簡易傾動測量（前報参照）の結果である。著しい動きが見られるが，振幅があまりにも大きく，そのまま真の地動とは受取り難い。ちなみにオートレベルを通しての標尺の読取確度を調べてみたのが第4図である。左図は測定セット（5～6回の読取繰返しで1セット）毎の標準偏差の統計，右図はひとつひとつの読取値を各セットの平均値に比較したばらつき程度の統計である。いずれによっても，読取確度自体は0.1～0.2mmあって，標尺の熱膨脹を考慮に入れても基線長約100mに対し1／2秒角以内には充分におさまっている。従って第3図の大きな動きは標石なり地表付近の岩層が日射などにより擾乱を受け，その結果として年周変化が測定にあらわれている可能性が強い。

その擾乱機構の解明は今後の調査にまちたいが，かりに一次式を適用して擾乱成分を除去してみると鎖線に示す通り，南東方向下りに1秒弱の傾動があったことになる。

（笠原慶一・島津孝・高橋辰利）

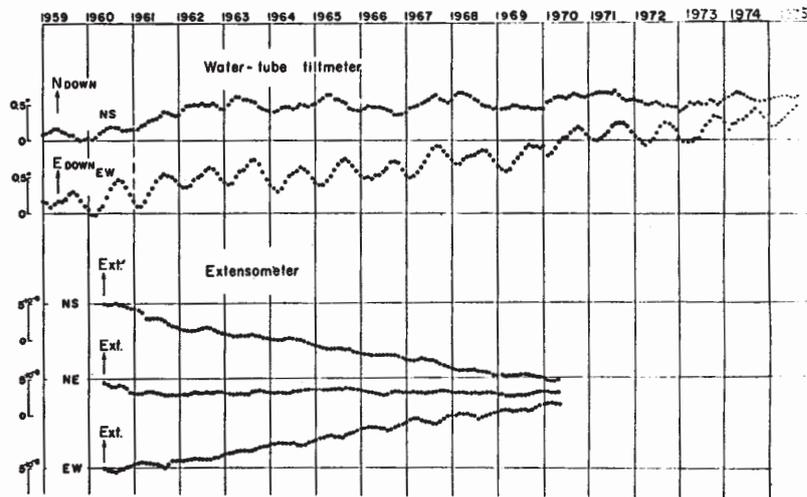
ABURATSUBO



第1図 油壺における土地傾斜・伸縮（月平均値）

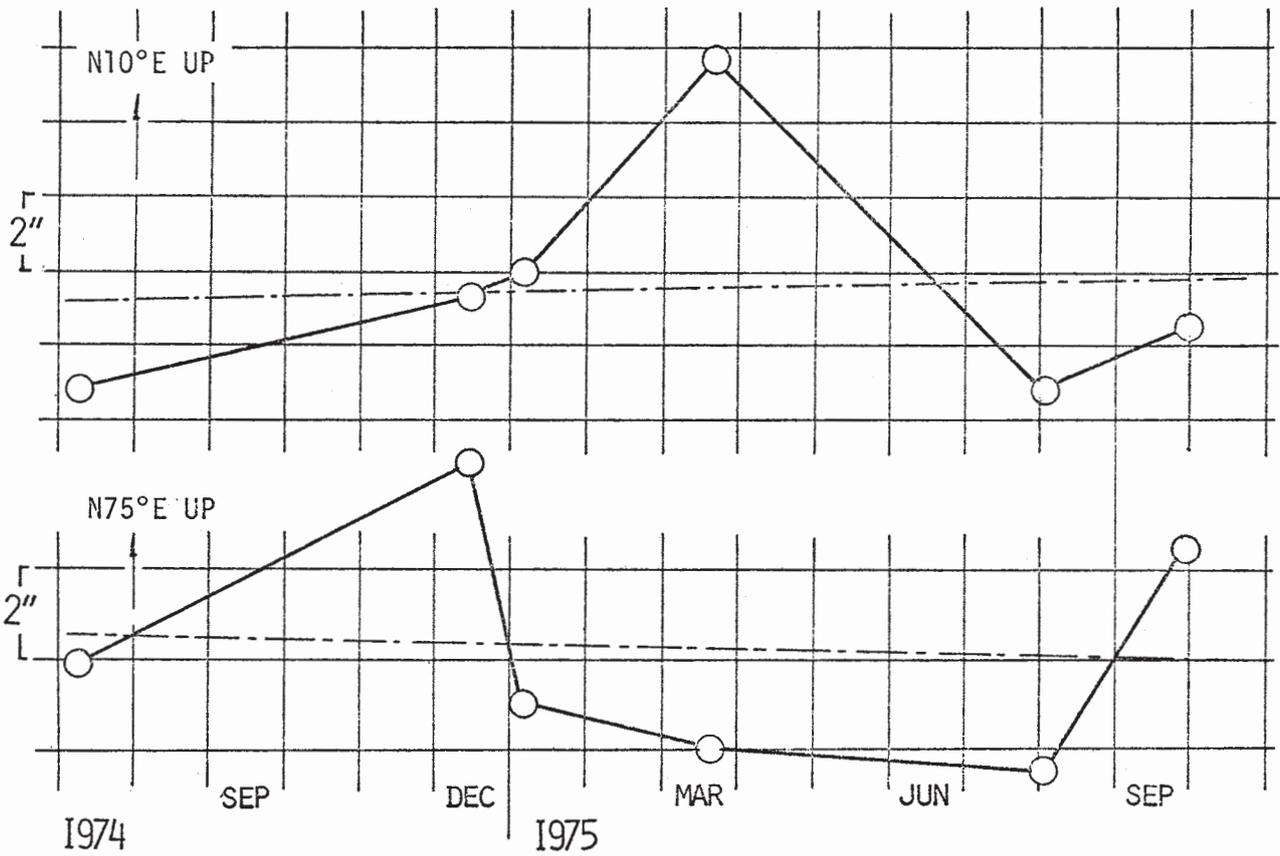
Fig. 1 Ground tilts and strains at Aburatsubo (monthly mean values).

NOKOGIRIYAMA



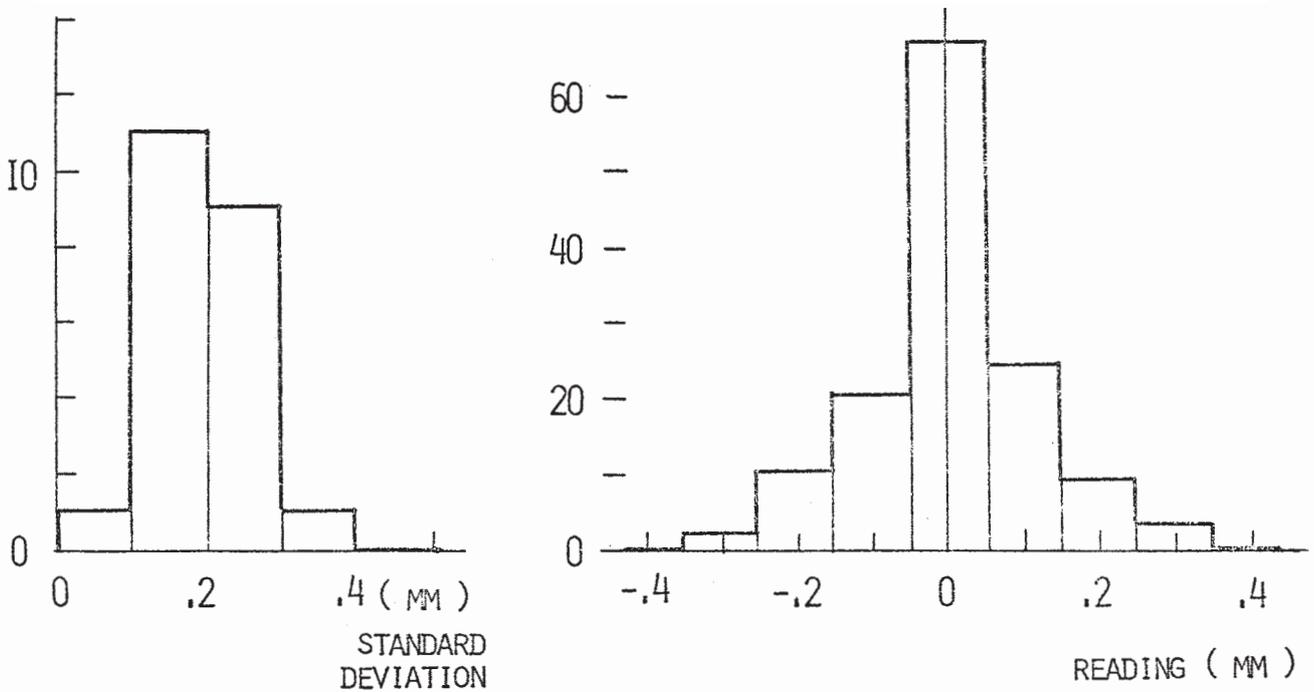
第2図 鋸山における土地傾斜・伸縮（月平均値）

Fig. 2 Ground tilts and strains at Nokogiriyama (monthly mean values).



第3図 野島崎（房総半島）の簡易傾動測量用基線における土地傾斜

Fig. 3 Observed ground tilts at a leveling quadrilateral on the uplifted coastal benches (Nojimazaki, Boso Peninsula).



第4図 傾斜測定の精度。(左)各回標準偏差の分布。(右)各回平均値から見た読取値のばらつき状況

Fig. 4 Accuracies of the readings. (left) Frequency distribution of the standard errors. (right) Deviation of the respective reading from the mean value.